

其の六 きなりの郷の四つのものがたり

ものがたり

本物のきなりの日々

(生活環境・交通・情報)

住んでいてよかったと思えるだけでなく、より多くの人を下北山村に招きたくなるような、憩いとふれあいのある日々を実現するために、ふるさとのかけがえない自然を損なわず、災害がなく、快適で利便性の高い、本物の、きなりの村づくりをめざします。

(一) 自然と共生する暮らしの実現

緑豊かなふるさとの自然環境を損なわずに、村土の九三%を占める森林の公益・経済機能を活かした村土の保全に努めます。また、住民の暮らしの中で自然と共生した暮らしを実現するために、できるだけごみを出さない暮らしの啓発を進める等、ふるさとの河川や美しい自然景観を守る暮らしをめざします。

(二) 開かれたふるさとの道づくり

きなりの郷に多くの人が、安全で快適に訪れることができるよう交流基幹軸としての国道や、村道などの危険箇所を早期改良を進めます。

また、村内の道路交通網の体系的整備とともに、道として単に人や車の往来という機能だけでなく、景観や形状においても配慮し、歩きたくなるような、きなりの郷にふさわしい開かれた道づくりを進めます。

(三) 災害に強いふるさとづくり

平成二年の台風一九号、平成十六年の台風一一号の被害状況から、災害のない、きなりの郷をめざして、治山・治水・砂防事業を進めるとともに、各地区において火災のない安全な下北山村の実現のために、万一の場合にそなえた、消防、防災の啓発、体制確立を進め、災害に強いふるさとをめざします。

また、下北山村は、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されております。近い将来に予想される、大規模地震に備え、地域、村、県と一体となって防災対策を進めます。

(四) きなりの心をつなぐ情報ネットワークづくり

行政・保健・環境・医療・福祉・生涯学習などの住民生活のあらゆる情報を提供できるように、下北山村の地域情報ネットワークを整備するとともに、その情報公開を積極的に行います。

「きなりの郷」とは…

近年、私たちの暮らしのなかにおいて、生成醤油や白木づくりの家屋など、「きなり」と呼べるものが少なくなっている。私たちのまわりには、添加物や不必要な装飾が施されていたり、材質に合板やプラスチックなど的人為的な加工が施された商品がほとんどである。

日本独特の価値意識である「きなり」とは、まざりけのない純粹という意味で、それは本物にだけ使える言葉である。

「きなりの郷」とは、文字通り本物（ナチュラル）の暮らしのある村という意味である。

ものがたりⅡ

純粹なきなりのモノづくり

(農林・水産・観光・商工)

きなりの郷の、本物のモノづくりを進めるために、下北山村の無限の資源である自然、生活文化、人を活かした「きなりブランド」を創造し、新しい生活様式として「きなり」を提案していきます。

(一) 人の顔が見えるきなりの産業おこし

きなりの郷では、衣食住全般にわたって下北山村の自然と生活文化を活かした、無添加、手作りの本物の産品を「きなりブランド」として企画・開発し、人の顔が見えるきなり産業を推進します。

(二) きなりブランドの販売ネットワークづくり

より多くの人々に下北山村のきなりブランド商品を通じて、「きなり文化」を理解してもらうために、都市住民を対象とした販売ネットワーク体制を確立します。

(三) 元氣、本氣の人氣村づくり

「きなりの郷下北山」を新しい生活様式「きなり」の村として、豊かな自然、「きなり」の生活文化、元氣な村人がいることを、より多くの人々に知ってもらうための広報を充実させるとともに、都市住民の受け入れなど、開かれた人氣村としての余暇活動・観光拠点の整備を進めます。

・下北山むらづくりセンターの充実

きなりの郷では、住民、行政、その他の団体の立場を超えて住民が一体となった、きなりの郷づくりを進めます。このため、(財)下北山むらづくりセンターを中心として、きなりブランドの企画・開発・販売をより体系的に行い、きなりブランドの強化に努めます。



・きなり温泉の活用

きなりの郷下北山村では、湧出した温泉を「きなりの湯」と名づけ「きなり」としてブランド化、少しづつ定着してきたように思います。さらに温泉施設を核として、他のブランド化を進める施策を複合的に実施しさらなる定着を図っていきます。

ものがたりⅢ 元氣、本氣の人づくり (教育・文化)

下北山村には連綿と受け継がれてきた農山村森林文化が息づいています。それは、温厚で素朴な人情とともに、美しいふるさとの自然景観を形成してきました。また、下北山村は、熊野文化圏という日本文化発祥の地域でもあります。

このような、無限の資源を背景として、元氣で本氣の「きなり」の人づくりをめざします。

(一) きなりの人づくり

きなりの郷では、こどもたちが伸び伸びと個性を開花させ、また、ふるさと下北山村に愛着と誇りがもてるよう、自分が生れ育った村の生活文化、歴史を学び、また、「きなり」という下北山がめざす本物の人格形成が果たせるよう、保育所から小・中学校と一貫した「きなり」の人づくりをめざします。

(二) 自立と充足のきなり生活

人生において、自らの可能性の追求、また、知的欲求の充足など、人間が等しく求める生きがいの追求を果たせることは、なにも代えがたい大きな喜びです。

きなりの郷では、社会教育、生涯スポーツ活動において自由に自らの可能性を伸ばし、きなりライフを楽しむ遊びのある学習環境を整備していきます。

(三) 下北山文化の伝承と創造

豊かな自然環境、連綿と受け継がれてきた農山村森林文化などの無限の資源を活かした、ここにしかない本物の、手作りで人肌を感じることできる「下北山きなり文化」を住民みんなで創造していきます。

また、熊野文化圏という下北山村の長い歴史が培ってきた歴史遺跡を掘り起こし、その保存と継承に努めます。

(四) あらゆる差別のないきなりの郷づくり

人間は生まれながらにして誰もが平等でなければなりません。きなりの郷では、人々の人権の尊重と幸せの追求の権利を守るために、あらゆる差別を追放します。



ものがたり四

暖かいきなりのこころづくり

(保健・医療・福祉)

急激な高齢化の進展は、併せて過疎問題をかかえる下北山村にとって保健・医療・福祉体制の確立、それに人材の確保など高齢化社会へ向けての課題が山積んでいます。病気知らずの元気村をめざすきなりの郷では、高齢者がいつまでも地域社会に役割を担い、生きがいと喜びを感じることで暮らづくりを進めます。このため、長い人生経験と知識をもつ高齢者をきなりの郷の、かけがえのない人的資源としてむらづくりに活用していきます。また、きなりの郷のものがたりでは、其の五の三で、病気知らずの元気村をめざしていますが、誰もが予想できない超高齢化社会へ向けて住民一人ひとりが、自立と相互扶助の理念を自覚した、暖かいきなりの心を育んでいきます。

(一) 安心して生活できる、きなりの郷づくり

総合計画策定にかかるアンケート調査でも、診療所等の医療に関する分野に対する関心が非常に高く、だれもが安心して生活できるよう、きめ細かい保健・医療・福祉体制の確立を図っていく必要があります。

(二) 高齢者や障害者が共に生活するきなりの郷のむらづくり

暖かい福祉社会を支えるものは、そこに住む住民相互の自立と思いやりの心です。高齢者や心身に障害をもつ人など、生活するのに不自由のある人が普通に暮らすことができる社会。きなりの郷では、このような理念で、人と人との暖かいふれあいと安心できる福祉の村をめざします。

